

新型ハリアーMOOK発売記念
80ハリアー最新カスタマイズ特集

2021年6月1日発行・発売
(毎月1回1日発行・発売)
第28巻第7号 通巻397号

WAGONIST

JULY
2021

7

ワゴンを愛するドレスアップ情報誌「ワゴニスト」
<http://www.wagonist.net/>

Auto Messe Web
<https://www.automesseweb.jp>

Lクラスミニバンのイジり方、教えます。

Lクラスミニバン最前線

キャンプ●車中泊●ドライブに役立つ
クルマ系便利アイテム



featuring

XXX

～物語のあるアイテムへ～

純国産のスポーツシートメーカー、ブリッド。

今回フィーチャーするのは、ミニバンにジャストなモデル「ストリームス」。

純正品では味わえない、心地良いホールド感と着座感。

そしてスタイリッシュなデザイン。運転が、愛車が、

必ずこれまで以上に好きになる、

このシートの魅力を深掘りする

©ブリッド ☎052-689-2611

<https://bride-jp.com>

PHOTO / 浦野浩之 COPY / 勝森勇夫

ブリッド・ストリームス

—BRIDE—
STREAMS

クルマのシートに本物の快適性能を

ドライバーの緊張を解く。
そこそがシートの使命

1981年。ブリッドは、人気絶頂期の、日本のモータースポーツシーンで産声をあげた。「日本人が、日本人のためにつくる」をコンセプトとしたバケットシートは、名より実を取る多くのレーシングドライバーに支持され、ブリッドの名はあつという間にモータースポーツファンの間に広まった。そして誕生から40年が経った今も、ブリッドはブランドコンセプトの「メイド・イン・ジャパン」を貫く。モータースポーツに参戦するドライバーに、確かな機能と安全性を提供するために。もちろんそれは、その後に開発されるストリート用モデルも同じだ。モータースポーツ向けに供給されるフルバケットモデルと、ストリートを対象とするセミバケットモデル。見た目も、構造的にもかなり異なる両者だが、ブリッドが追求している一番の機能は、実は変わらない。それが「ドライバーをリラックスさせる」という機能だ。モータースポーツ用は、ドライビングに全集中できるように。ストリート用は運転時の疲労を軽減するために、ドライバーをリラックスさせる。身体を点ではなく面で支えるブリッドの独特なホールドディング性能は、ドライバーの緊張を解くことこそが目的なのだ。「渋滞にハマるとイライラするのは、運転のストレスから体が早く解放されたがつている証拠。リラックスできていればそうはなりません」とはブリッドの笹尾真弘さん。クルマのシートの、本当の快適性とは何か。今回フィーチャーしたストリームスは、それを教えてくれるシートなのだ。



走るほどに感じる

真のコンフォート性能

モータースポーツ向けのフルバケットシートは100パーセント、クルマが動いている時のことを考えて作られている。一方、純正シートは、それがたとえスポーツカーのシートであっても、設計のウェイト配分は、走行中とそれ以外とで、40対60といったところ。バケットシートでは重要視されることのない「乗り降りのしやすさ」といったことも、純正シートは考えないワケにはいかないのだ。

そしてミニバンを含めて一般的なモデルの純正シートは、走行中の機能がさらに軽視されがち。プレミアムな高級車に採用されるコンフォータブルなシートも、その価値を味わるのは、クルマを走らせている時よりも停車している時だ。そして、モータースポーツ用のバケットシートをバックボーンとするストリームスは、同じコンフォート志向でも、純正品とはこのあたりが大きく違う。ストリームスが謳うコンフォートとは、クルマを走らせている時(パッセンジャーにとっては動いている時)に、最も強く感じられる快適さのことだ。機能の割合で言えば、70対30。あくまでも走行時において、人の身体をしっかりとサポートし、リラックスさせ、運転や移動の疲労を最小限に抑えることを一番に考えて、設計されているのだ。

日常の使い勝手を考慮した、乗り降りしやすいフラットな座面形状。車内を広く見せると同時に、さまざまな車種への搭載を可能にするコンパクトなショルダーサポート。さらにシートヒーター搭載モデルの用意。従来のセミバケットとは一線を画す快適さを、スタイリッシュファオルムに装備したストリームス。しかし、本質はあくまでもコンセプトキープ。このシートの快適さは、クルマを走らせるほどに深く身に染みる。



オフィスや自宅用にも!

オフィスでもブームの兆し。確かなサポート性能が、デスクワーク時の正しい姿勢の維持をアシスト。仕事の効率アップに貢献する

SPEC&PRICE

ブリッド製シート+マルチキャスター
プロ●¥124,000~



スタジアムの選手用シートに!

ブリッド製シートは、スタジアムのプレイヤーズベンチに採用されていることでも有名。優れたリラックス性能が買われての起用だ

SPEC&PRICE

ストリームス●¥103,400~¥123,300

ストリームス・クルーズ●¥106,700~¥126,500

■素材:高級スウェード調生地 ■カラー:グラデーションロゴBE、ブラックBE、チャコールグレーBE、レッドBE、タフレザーブラック



サーキットで培われたホールド技術が 極上のリラックスをもたらし



ストリームスはストリート向けコンフォートモデル。スポーツユース(ヘルメットの装着)は想定せず、ヘッドレストは厚みのあるデザイン。乗降性を考慮し、座面のサイドサポートは低い。その分、腰部でしっかりと支える設計だ



アームレストを装備した
クルーズ仕様も!

脇部はゆとりがあり、大柄な人でも窮屈さは感じにくい設計。快適なアームレストを装備したクルーズモデルもラインアップされている



スポーツ走行対応のユーロスターIIと比べ、ストリームスはショルダーサポートがコンパクト。車内が狭い車種にも搭載しやすいデザインだ。後部座席に座る人にとっても、視覚的な圧迫感がなく、快適なシートと言える

SPEC&PRICE

ユーロスターII●¥103,400~¥123,300

ユーロスターII・クルーズ●¥106,700~¥126,500

■素材:高級スウェード調生地(センター部はメッシュ地)

■カラー:グラデーションロゴBE、ブラックBE、チャコールグレーBE、レッドBE



ユーロスターIIは、スポーツ走行が可能なセミバケットシートという位置付けのシート。ヘッドレストの厚みは薄く、4点式シートベルトの装着も可能。サイドサポートも、肩、脇、腰、そして腿まで、全体でしっかりと支える造りだ



SPEC&PRICE

スーパーシートレール●¥19,250~

シートの安全性を大きく左右するシートレール。ブリッドの製品は、全て保安基準適合品で、究極の品質とファイティングを約束する

「ピギナー」であればサーキット走行も可能な機能と性能。フルバケットシートを使ったことのあるモータースポーツ経験者なら、こちらの方がしっくりくるかもしれません。実際に座り比べてみても、サポート感はユーロスターIIが明らかにタイト。そしてそれが頼もしく感じる部分でもある。

基本構造はストリームスと同じ、リクライニング可能なセミバケットタイプ。パイプフレームと高密度ウレタンフォームを主材とした、快適性能重視モデルとなる。コーナリングを意識した大型のショルダーサポートや高めのサイドサポート。ヘルメットの装着を意識した薄目のヘッドレストに、4点式シートベルトの装着を可能にするベルトホルルの採用など、ユーロスターIIは本格的なスポーツシート機能を備えている。

ストリームスには、前身となるモデルがある。「ストリートステージ」に軸足を置いたスポーツシートとして開発された、ユーロスターIIがそれだ

スポーツ機能を備えた
ユーロスターIIという選択も



取締役 統括部長
笹尾真弘サン

「乗り心地が最悪なバンも、ブリッドのシートで、驚くほどカラダがラクになります」と笹尾サン。実際にシートを付けた社用車(バン)に乗せてもらった。まさに笹尾サンの言うとおりだった



SPEC&PRICE

ストラディアⅢ ● ¥198,000～¥258,500

- 背面:FRP製シルバーシェル、スーパーアラミド製ブラックシェル
- カラー:グラデーションロゴ、ブラック、レッド

フルバケットライクな高いホールド性能と日常での使い勝手を高次元で両立した、新世代のセミバケット。高密度な発泡モールドウレタンからなる股部のクッションは、好みに合わせて高さが選べる



スタンダードクッション



ロークッション



SPEC&PRICE

ディーゴⅢライツ ● ¥93,500～¥96,800

ディーゴⅢライツ・クルーズ ● ¥96,800～¥100,100

- 素材:高級スウェード調生地
- カラー:グラデーションロゴ BE、ブラック BE、チャコールグレー BE、レッド BE

Kカーなど、車内スペースがタイトな車種への搭載が可能。コンパクト設計ながら、座面やバックレストに高張力ネットを配置することで、高いホールド性と上質な乗り心地を実現している



熟練職人による見事な縫製作業。この繊細なシゴトは、やはり日本人ならではの、本縫いにステッチワーク。ロゴの刺繍も人の手で施す



グラデーションロゴモデルは、一枚の生地から取れるパターンが少量。ロスの多さを知れば、無地との差額は逆に安いと感じるほどだ



CADで設計したパターンを、一寸の狂いもなくハイスピードで切り抜く裁断機。縫製の本場、フランスから取り寄せた最先端マシンである

今回フィーチャーしたストリームスとその前身となるユーロスター。ここまでに紹介した2つのモデル以外にも、ブリッドでは、ワゴンストたちに注目してほしいアイテムが、もうあと2つある。そのひとつが、Kカーやコンパクトカーなど、車内空間がタイトな車種にマッチするディーゴⅢライツというモデルだ。

日本の、Kカーへの搭載を前提に開発されたこのシート、座面の幅は465mm、バックレストの全高は3センチ低く(先代モデル比)設計したコンパクトなモデルだ。しかしそれでいて、高いホールド性や上質な座り心地は、一般的なサイズのコンフォートモデルに大きくヒケをとらない。ジャパンブランドならではのラインアップとクオリティを誇っている。

そしてもうひとつが、15年ぶりにフルモデルチェンジされたストラディアⅢだ。サーキット走行での高いホールド性能と、日常ユースでの使い勝手を合わせ持つ、新世代のセミバケットとして開発されたこのシート。新設計のボーンフレームや有段リクライナー機構などさまざまな新技術を搭載する。ミニバンといえ、レーシーなカスタムを狙うならば、合わせてみたいシートだ。

取材当日は、メイド・イン・ジャパンを貫くブリッドのシートが、真正正銘、国内で製造されている様子が垣間見れた。本社の近くにある縫製専用ファクトリー。据え置かれた自動裁断機は一機、数千万円という最先端マシン。しかし、それより何より目を引くのが、熟練の職人による見事な縫製ワークだ。ひと針でもミスすれば破棄するというコダワリ。純国産の魅力は、技術はもちろん、ユーザを決して裏切らない職人たちの誠実さにあるのだろう。

**Kカー対応品もラインアップ。
ジャパンブランドなればこそ**